

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

甲子園短期大学では、以下の能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定され、短期大学士の学位が授与される。

【全学ディプロマ・ポリシー】

（関心・意欲・態度）

1. 自立のために、自らの意思により努力できる。（勤勉努力）
2. 互いに理解しコミュニケーションをとり、力を合わせることができる。（和衷協同）
3. 高い倫理観をもち、真心をもって、誠実に行動することができる。（至誠一貫）

（知識・理解）

4. 倫理・道徳的な教養と専門的知識を身に付けている。

（思考・判断）

5. 時代に対応した専門的知識や技能を実践的場面で活用でき、継続して自ら学び続けることができる。

（技能・表現）

6. 適切な情報を選択し、自ら考え、他者に提示できるとともに、新たな価値を創造し発信することができる。

【生活環境学科ディプロマ・ポリシー】

（知識・理解）

1. 生活を取り巻く環境・健康・福祉に関する知識と技術を身につけ、活用できる。

（思考・判断）

2. 自然・社会環境における諸問題について多面的かつ客観的に考察し、主体的に行動できる。

（技能・表現）

3. 多様な職種の役割を理解するとともに、円滑なコミュニケーションを図り、他者と連携し協同することができる。

【幼児教育保育学科ディプロマ・ポリシー】

（知識・理解）

1. 幼児教育・保育に関する知識と実践に役立つ技術を身につけ、活用できる。

（思考・判断）

2. 個性と発達の多様性を理解し、保育者として主体的・多面的・客観的に考察し、適切に行動できる。

（技能・表現）

3. 子どもを共感的に理解し、多様な立場を理解するとともに地域と連携し、専門的知識や技能を保育と教育の現場で活用できる。

3. 卒業するために

(1) 卒業に必要な単位数

◇本学を卒業するためには、2年以上在学し、各学科で必要とされる所定の単位数を修得しなければなりません。

◇卒業するためには、学則第25条に従い、次に示す通りの単位を修得しなければなりません。

区 分	総合教養科目	専門教育科目	合 計
生活環境学科	12 単位以上	54 単位以上	66 単位以上
幼児教育保育学科		54 単位以上	66 単位以上

◇次の各項についても、注意してください。

- ① 学則第11条に規定する「総合教養科目」については、各学科とも「特別演習ⅠA」「特別演習ⅠB」「特別演習ⅡA」「特別演習ⅡB」「人権教育の研究」の必修科目を含めて、12単位以上を修得しなければなりません。
- ② 学則第11条に規定する「専門教育科目」については、各学科における必修科目を含めて履修し、上表に示す通り単位を修得しなければなりません。

◇卒業に際して「**短期大学士**」の学位が授与されます。

(2) 授業時間

「講時」制をとっている関係上、90分をもって1講時としています。

(3) 受講登録

- ① 学期始めには、当該学期の開講時間割表にもとづいて履修しようとする授業科目を選択のうえ、指定の期日までに所定の履修科目届に記入し、履修科目の登録を行います。
- ② 登録をしていない授業科目については授業および試験を受けることができません。
- ③ 登録した授業科目の変更は、指定の期間に手続きを済ませてください。
- ④ 1年間に登録できる履修科目の単位数の上限は原則50単位とします。但し、本学が規定する特例の科目及び成績優秀な学生等については、上限を超えて履修科目の登録を認める場合があります。

第8章 履修方法・課程修了の

認定及び卒業

(履修単位の計算方法及び付与)

第23条 授業科目を履修した者には認定のうえ所定の単位を与える。

2 1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、各授業科目の単位数は次の基準により計算する。

(1) 講義については15時間の授業をもって1単位とする。但し、別に定める授業科目については30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については30時間の授業をもって1単位とする。但し、別に定める授業科目については15時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験・実習及び実技については45時間の授業をもって1単位とする。但し、別に定める授業科目については30時間又は40時間をもって1単位とする。

(4) 講義と実習等二つ以上の方法の併用により行う授業科目については、その組み合わせに応じ、前各号の基準により算定した合計時間数をもって1単位とする。

(5) 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(課程修了の認定)

第24条 単位修得の認定の方法は試験及びその他の審査により、これを行う。

2 前項の試験及びその他の審査の方法については、別に定める。

3 出席時間数が総授業時間数の3分の2(介護実習にあつては5分の4)に満たない者には当該科目の履修の認定をしない。

4 学習の評価は、4,3,2,1及び0の五段階をもって示し、必要に応じてそれぞれ秀、優、良、可及び不可と表記することがある。また、4,3,2,1を合格とし、0を不合格とする。

(卒業の要件)

第25条 学生は2年以上在学し、総合教養科目及び専門教育科目について、次の通り単位を修得しなければならない。

区分	総合教養科目	専門教育科目	合計
生活環境学科	12単位以上	54単位以上	66単位以上
幼児教育保育学科		54単位以上	66単位以上

(教育職員免許状)

第26条 教育職員免許状を得ようとする者は、前条のほか教育職員免許法及び同法施行規則に規定する科目の単位を修得しなければならない。

2 本学の幼児教育保育学科において取得できる教育職員免許状は幼稚園教諭二種免許状とする。

(保育士、介護福祉士資格)

第27条 保育士の資格を得ようとする者は、幼児教育保育学科に在籍し、第25条に定めるところによるほか児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科科目及び単位数ならびに履修方法(平成13年厚生労働省告示第198

号)に定める授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。その細則は別に定める。

- 2 介護福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、生活環境学科に在籍し、第25条に定めるところによるほか社会福祉士介護福祉士学校指定規則第5条第1項第3号に定める授業科目を履修し、その単位を修得しなければならない。その細則は別に定める。

(追試験)

第28条 事故等やむをえない事由により受験できなかった者は、追試験を受けることができる。

(他の短大等における履修単位の認定)

第29条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の短期大学又は大学及び高等専門学校に専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学長は、教授会の意見を聴いて30単位を超えない範囲で単位を与えることができる。

(入学前の他の短大等における履修単位の認定)

第30条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなし単位を与えることができる。

- 2 前項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第18条に規定する再入学又は転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外の

ものについては、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて、30単位を超えないものとする。

(卒業)

第31条 学長は第25条に規定する要件を満たした者について、教授会の意見を聴いて卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

- 2 卒業証書には、短期大学士の学位を得たことを証する。

(資格)

第32条 本学において取得できる資格は、別に定める。

平成 31 年度入学生

総合教養科目 カリキュラムマップ

区分	分野	授業科目	サブタイトル	単位	全学ディプロマポリシー (DP)										
					I 回生		II 回生		(関心・意欲・態度)		(知識・理解)	(思考・判断)	(技能・表現)		
					前	後	前	後	1. 自立のために、自らの意思により努力できる。(咆咆努力)	2. 互いに理解しコミュニケーションをとり、力を合わせることができる。(和衷協同)	3. 高い倫理観をもち、真心をもって、誠実に行動することができる。(至誠一貫)	4. 倫理・道徳的な教養と専門的知識を身につけている。	5. 時代に対応した専門的知識や技能を実践的場面で活用でき、継続して自ら学び続けることができる。	6. 適切な情報を選択し、自ら考え、他者に提示できるとともに、新たな価値を創造し発信することができる。	
必修	人間教育の基礎	特別演習 I A	心を育てる - 大学生として -	1	○				◎	◎	◎	○			
		特別演習 I B	心を育てる - 大学生として -	1		○			◎	◎	◎	○			
		特別演習 II A	心を育てる - 自立に向けて -	1			○		◎	◎	◎	○			
		特別演習 II B	心を育てる - 自立に向けて -	1				○	◎	◎	◎	○			
		人権教育の研究	人権意識の啓発	1	○					◎	◎	○			
選択	社会とくらし	地域の歴史と生活		2				○				◎		○	
		数字で見る経済	現代の日本経済	2				○				◎		○	
		日本国憲法	日本国憲法を身近にする	2		○						◎		○	
		心理学	科学的に人間行動を理解する	2	○							◎		○	
		超スマート社会入門	これからの社会をより良く生きるために	2	○					○	◎		○	◎	
		女性のためのライフデザイン	女性のためのライフデザイン	2	○				○		◎		○	◎	
		くらしと法律	家庭と消費生活の法律知識を学ぶ	2	○				○		◎		○	◎	
		生活文化演習	生活力を高めるために	1		○			○		◎		○	◎	
		くらしと環境	身近な環境問題と健康	2				○	○			◎		○	
		インターンシップ	社会人基礎力を養う	2	適	適					○	◎		○	
選択	いのちと健康	生命倫理	現代医療における倫理的問題	2				○	○			◎		○	
		臨床心理	こころの健康とその支援	2				○			◎		○		
		体育 A	幼児期の運動遊び(理論)	1			○				◎		○		
		体育 B	楽しみながら体力や運動力を培う運動遊び	1			○			○		◎		◎	
		生命のしくみと繋がり	いのちの授業	2			○	○			◎		○		
		身近な化学	栄養を学ぶ基礎	2			○	○			◎		○		
選択	表現と情報	情報処理 I A	ワープロ入門 1	1	○							◎		○	
		情報処理 I B	ワープロ入門 2	1		○						◎		○	
		情報処理 II A	表計算ソフトの活用	1			○					◎		○	
		情報処理 II B	汎用アプリケーションソフトの活用	1				○				◎		○	
		情報処理論	情報処理の基礎	2	○							◎		○	
		統計実務	楽しく統計を学ぶ	2			○					◎		○	
		文章表現	文章表現力をつける	2	○						○		◎		
		文書技術論	ビジネス文書の作成	2	○							◎		○	
		芸術	書道	書道 A	漢字のレッスン	1	○				◎		○		○
				書道 B	漢字のレッスン	1		○			◎		○		○
美術 A	子どもの造形表現につなげる美術			1			○		○			◎			
美術 B	子どもの造形表現につなげる美術			1			○		○			◎			
国際関係理解	英語 I A	コミュニケーション力の向上	1	○				○			◎		○		
	英語 I B	コミュニケーション力の向上	1		○			○			◎		○		
	国際社会と日本	国際的視野の獲得と日本の理解	2			○		○			◎		○		
園芸	園芸療法論	園芸療法と園芸福祉	2	○					○		◎		○		
	ガーデニング	保育に活かすガーデニング	2	○					○		◎		○		
	フラワーデザイン I	ゆとりある生活のために	1		○					○		◎			
	フラワーデザイン II	空間をデザインする表現力	1		○				○		◎		○		
	園芸療法実習 I	園芸療法士として活躍するために	1			○			○		◎		○		
	園芸療法実習 II	実践力のある園芸療法士を目指して	1			○			○		◎		○		
園芸学	園芸の科学と文化	2	○				○			◎		○			

平成 31 年度入学生

生活環境学科 カリキュラムマップ

区分	授業科目	サブタイトル	単位	I 回生		II 回生		全学ディプロマポリシー (DP) (関心・意欲・態度)			生活環境学科ディプロマ・ポリシー(DP) (知識・理解) (思考・判断) (技能・表現)		
				前	後	前	後	1. 自立のために、自らの意思により努力できる。(勉勵努力)	2. 互いに理解しコミュニケーションをとり、力を合わせる事ができる。(和衷協同)	3. 高い倫理観をもち、真心をもって、誠実に行動することができる。(至誠一貫)	4. 生活を取り巻く環境・健康・福祉に関する知識と技術を身に付け、活用できる。	5. 自然・社会環境における諸問題について多面的かつ客観的に考察し、主体的に行動できる。	6. 多様な職種役割を理解するとともに、円滑なコミュニケーションを図り、他者と連携し協同することができる。
必修	生活環境学概論	現代の生活環境を考える	2	○				◎			○		
	キャリアキャッチ演習	適職の選択と準備	2	○				○	○		◎		◎
	社会福祉概論	社会福祉・社会保障制度の基礎的理解	2	○				○		◎		○	
	ホスピタリティとボランティア	おもてなしの心とボランティア	2		○				◎		○		○
	生活支援技術概論	家庭生活の基本機能	2			○	(○)		○		◎		○
共通選択 ライオンキャリアフィールド科目	福祉制度論	介護実践に関する諸制度	2					○			◎		
	消費と流通	食のマーケティングを学ぶ	2					○			◎		○
	食の安全	食品の安全性	2	○				○			◎		
	栄養と健康	健康と食生活を考える	2			○		○			◎		
	ライフステージ栄養学	ライフステージ別の栄養	2			○		○			◎		
	食のサイエンス	食卓の向こう側	2			○		○			◎		
	食品加工	食品加工の科学と実践	2		○			○			◎		○
	調理の科学	楽しい調理学	2	○				○			◎		○
	クッキングⅠ	基本の調理学実習	2	○				○			◎		○
	クッキングⅡ	調理の応用	2		○			○			◎		○
	フードコーディネーター論Ⅰ	フードコーディネーターの基本	2			○			○		◎		○
	フードコーディネーター論Ⅱ	フードコーディネーターの応用	2			○					◎		◎
	暮らしの行事と文化	和洋の行事、儀礼と文化	2			○		○			◎		
	テーブルコーディネーター	食空間の総合演出	2			○			○		◎		○
	食物と調理	調理学実験	2			○		○			◎		○
	日本語基礎演習Ⅰ	話し方基礎	2	○					○		◎		
	日本語基礎演習Ⅱ	話し方応用	2		○			○			◎		◎
	ビジネス実務総論	ビジネスの基本	2			○		○			◎		
	ビジネス実務	ビジネスの実践	2			○		○			◎		◎
	課題解決演習	社会の多様性や関係性を理解する	2		○			○			◎		○
	発表技法論	話題の整理と表現方法	2		○			○			◎		○
	園芸デザインⅠ	ゆとりある生活のために	1		○				○		◎		○
	園芸デザインⅡ	空間をデザインする表現力	1		○			○			◎		○
	コミュニケーション論	コミュニケーションと人間関係	2			○		○			◎		○
	アロマコーディネーター	社会で役立つアロマセラピー知識全般と実技演習	2		○				○		◎		○
	ユニバーサルデザイン	ひとにやさしいデザイン	2			○		○			◎		○
	医療管理学概論	病院管理	2	○		○		○			◎		
	医療業務に関する医学一般	医学を広く学ぶ	2	○				○			◎		
	医療業務に関する薬の知識	知っておきたい薬の基礎知識	2	○				○			◎		
	医療事務総論	診療報酬事務総論	1	○		○		○			◎		
	医療保険請求事務演習	診療報酬事務総論	1	○		○		○			◎		◎
	Web デザイン	ウェブページの制作	2			○		○			◎		◎
	園芸Ⅰ	生活に活かす園芸	1	○				○			◎		○
園芸Ⅱ	観察する力を伸ばす	1		○			○			◎		◎	
介護福祉フィールド科目	介護概論	生活と介護	2	○				◎		○		○	
	発達と老化Ⅰ	成長と発達	2	○				○		◎		○	
	発達と老化Ⅱ	高齢者と健康	2		○			○		◎		○	
	認知症の理解Ⅰ	認知症の基礎的理解	2		○			○		◎		○	
	認知症の理解Ⅱ	認知症者の日常生活	2			○		○		◎			○
	障害の理解Ⅰ	障害の基礎的理解	2	○				○		◎		○	
障害の理解Ⅱ	障害のある人の生活支援	2		○			○		◎		○		

区分	授業科目	サブタイトル	単位	I 回生		II 回生		全学ディプロマポリシー (DP) (関心・意欲・態度)			生活環境学科ディプロマ・ポリシー(DP) (知識・理解) (思考・判断) (技能・表現)		
				前	後	前	後	1. 自立のために、自らの意思により努力ができる。(咆咆努力)	2. 互いに理解しコミュニケーションをもち、誠実に行動する。力を合わせることができる。(和衷協同)	3. 高い倫理観をもち、真心をもって、誠実に行動することができる。(至誠一貫)	4. 生活を取り巻く環境・健康・福祉に関する知識と技術を身に付け、活用できる。	5. 自然・社会環境における諸問題について多面的かつ客観的に考察し、主体的に行動できる。	6. 多様な職種との役割を理解するとともに、円滑なコミュニケーションを図り、他者と連携し協同することができる。
共通選択	こことからだのしくみⅠ	身体の構造と心機能「睡眠」「身じたく」「活動・移動」に関連したこことからだのしくみ	2	○				○		○			
	こことからだのしくみⅡ	「入浴・清潔保持」「排泄」「食事」に関連したこことからだのしくみ	2		○			○		○			
	こことからだのしくみⅢ	疾患の理解	2			○		○		○			
	こことからだのしくみⅣ	高齢者・障害者の健康管理	2			○		○		○			
介護福祉フィールド科目	介護の基本Ⅰ	介護サービス提供の場	2	○				○		○			
	介護の基本Ⅱ	高齢者・障害者の生活を支える諸制度	2		○			○		○			
	介護の基本Ⅲ	介護を必要とする人の理解	2			○		○		○			
	介護の基本Ⅳ	求められる介護福祉士像に向けて	4				○	○		○			
	コミュニケーション技術Ⅰ	コミュニケーションの基本	2	○				○		○		○	
	コミュニケーション技術Ⅱ	手話と点字の活用	2			○		○		○		○	
	生活環境支援技術Ⅰ	家事生活の支援	1				○	○		○		○	
	生活環境支援技術Ⅱ	福祉と住まい	1				○	○		○		○	
	日常生活支援技術Ⅰ	介護技術Ⅰ	2	○				○	○	○		○	
	日常生活支援技術Ⅱ	介護技術Ⅱ	2		○			○	○	○		○	
	日常生活支援技術Ⅲ	高齢者の食生活と健康	1		○			○		○		○	
	日常生活支援技術Ⅳ	福祉レクリエーションでの支援	1		○			○		○		○	
	ターミナルケア	終末期の理解と介護	2			○			○	○		○	
	介護過程Ⅰ	介護過程の意義と目的	2	○			○		○		○	○	
	介護過程Ⅱ	介護過程の展開	4		○			○		○		○	
	介護過程Ⅲ	介護過程の実際	2			○		○		○		○	
	介護過程Ⅳ	事例研究の基礎的理解	2			○		○		○		○	
	介護実習	介護体験と実践力の習得	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	介護総合演習Ⅰ	介護実習Ⅰ-①・②に向けて	1	○				○		○		○	
	介護総合演習Ⅱ	介護実習Ⅰ-③・④に向けて	1		○			○		○		○	
介護総合演習Ⅲ	介護実習Ⅱに向けて	1			○		○		○		○		
介護総合演習Ⅳ	介護実習Ⅰ・Ⅱから得た学び	1				○	○		○		○		
医療的ケアⅠ	喀痰吸引、経管栄養の基礎知識	4			○			○	○		○		
医療的ケアⅡ	安全な医療的ケアの実際	2				○		○	○		○		
	卒業研究		2			○	○	○	○	○	○	○	
	フィールドワーク研修		2		○			○	○	○	○	○	

平成 31 年度入学生

幼児教育保育学科 カリキュラムマップ

区分	授業科目	サブタイトル	単位	I 回生				II 回生				全学ディプロマポリシー (DP) (関心・意欲・態度)			幼児教育保育学科ディプロマ・ポリシー (DP) (知識・理解) (思考・判断) (技能・表現)				
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
必修	保育者論	保育者の役割と責任	2		○											◎	○	○	
	教育原理	教育の基礎理論の習得	2			○										◎	○	○	
	保育原理	保育の理念・歴史・制度 発達と学習の過程	2				○									◎	○	○	
	社会福祉	社会福祉の基礎的理解	2			○										◎	○		
	子ども文化論	幼児教育の視点からの子どもと文化	2				○									◎	○		
選択	幼児音楽基礎 I	保育音楽基礎	1		○											◎	○		
	幼児音楽基礎 II	保育音楽応用	1			○										◎	○		
	ピアノ基礎	ピアノ入門	1	○												◎	○		
	幼児教育基礎演習	保育者のための基礎力を養う	1	○						◎						◎	○		
	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉の制度と課題	2				○									◎	○	○	
	社会的養護 I	社会的養護の基礎	2		○											◎	○	○	
	社会的養護 II	社会的養護の実際	1			○										◎	○		
	保育の心理学 I	乳幼児期の発達 幼児理解の理論と方法・教育実践	2	○												◎	○		
	保育の心理学 II	子どもの理解と援助	1		○											◎	○		
	子ども家庭支援の心理学	子どもの精神保健と家庭の機能	2			○										◎	○	○	
	子どもの保健	子どもの心身の健康と保健	2	○												◎	○	○	
	子どもの健康と安全	保健活動と衛生管理並びに安全管理	1		○											◎	○		
	子どもの食と栄養	子どもの食生活の意義と基本	2				○									◎	○		
	子ども家庭支援論	子育て家庭支援の基本と体制	2				○									◎	○	◎	
	保育カリキュラム論	子ども理解に基づく保育の課程を学ぶ	2	○												◎	○		
	保育内容総論	保育内容の基本と実践	1				○									◎	○	○	
	保育内容健康	子どもの健康を支える	1	○												◎	○		
	保育内容人間関係	人間関係の発達への支援	1			○										◎	○		
	保育内容環境	乳幼児の発達と理解	1		○											◎	○		
	保育内容言葉	子どもの言葉と保育の実際	1	○												◎	○		
	保育内容表現	歌とリズムを生かした身体表現	1	○												◎	○		
	乳児保育 I	乳児保育の目的や内容	2	○												◎	○		
	乳児保育 II	乳児保育の方法や環境構成	1		○											◎	○		
	特別支援教育・保育概論	特別支援教育の理解と援助	2	○												◎	○	○	
	保育相談支援	子育て支援の特性と実際	1				○									◎	○	◎	
	子どもと遊び	子どもの発達と遊び	1		○											◎	○		
	子どもと環境	保育に活かす環境	1	○												◎	○	○	
	子どもと音楽表現	子どもの音楽表現の方法	1			○										◎	○		
	子どもと造形表現	造形表現の実践	1	○												◎	○		
	子どもと言葉	言葉を豊かに育てる実践	1		○											◎	○		
	保育総合表現	身体表現・音楽表現のスキルアップ	2				○									◎	○		
	リトミック	音楽とリズム	1		○											◎	○		
	教育方法と技術	教育の指導法・技術の習得	2				○									◎	○		
	教育実習	幼稚園での教育実習	4			適		◎		○						◎	○	○	
	教育実習指導	教育実習の事前事後学習	1		○											◎	○	○	
	保育実習 I	保育所・児童福祉施設での実習	4	適	適			◎		○						◎	○	◎	
	保育実習指導 I	保育実習 I 事前事後学習	2	○												◎	○	○	
	保育実習 II	保育所における実習	2			適		◎		○						◎	○	◎	
	保育実習 III	児童福祉施設実習	2			適		◎		○						◎	○	◎	
	保育実習指導 II	保育実習 II 事前・事後学習	1		○											◎	○	○	
保育実習指導 III	保育実習 III 事前・事後学習	1			○										◎	○	○		
教職実践演習	保育者としての資質能力形成の確認	2				○		◎		○					◎	○	◎		
卒業研究		2		○	○			◎		○					◎	○			
フィールドワーク研修		2		○				◎		◎					◎	○			